



社会学類

への招待



*A Guide to
College of Social Sciences, University of Tsukuba*

ようこそ社会学類へ

社会学類長 明石 純一

社会学類は、私たちが生きる社会を多角的に認識し、総体として把握するための能力を身に付ける環境を提供しています。社会学類は四つの主専攻、すなわち社会学、法学、政治学、経済学から構成されています。その個々の学問のルーツや基礎的な考え方を知ることから、社会学類での学びが始まります。社会科学の幅広い思想や理論に触れ、分析の方法を知り、研究実践への準備をまずは進めるのです。異なる学問を横断的に学ぶこと、月並みな言葉で表せば「学際性」を重んじることの重要性は、言うまでもありません。隣接しながらも性格を異にするディシプリン（専門分野）に根差した事象の見方、語り方を覚えることは、極めてエキサイティングで高度な知的体験であることを、私は強調します。

挙げればきりがなほどの未解決な社会的課題を抱えるに至った現代は、先行きも不透明な時代です。それらの問題を構造から解明し、さらには解決法を見出したいのであれば、特定の領域に偏った知識では足りません。社会、法、政治、そして経済は、互いに規定し、介入し合っています。さらに私たちが生きる社会では様々な価値観や志向性が混在し、せめぎ合っています。この結びつきと多様性はもはや自明であり、あまりに常識的といえますが、その常識をまるごと引き受け、諸問題に正面から挑む知性なくしては、今日の社会を公正に捉え、今より生きやすい将来の社会を構想する道は拓けないのではないでしょうか。それは、現状に追従しない健全な批判精神と、更新を躊躇しない柔軟な思考回路を培うことでもあります。

社会学類は、社会の理解に対するこのような基本姿勢を尊重しながら、学生みずからが望む専門的な能力の獲得を求めます。社会学類が重きをおく学際性の強みは、固有のディシプリンを高い水準で体得してこそいかに発揮されるのであり、本学類が目指すところ です。このタフな学びの場に率先して挑戦してくれる若者を、社会学類は歓迎します。

目次

筑波大学・社会学類について カリキュラム	1
各主専攻の紹介 ● 社会学主専攻	2
● 法学主専攻	3
● 政治学主専攻	4
● 経済学主専攻	5
教員紹介	6
4主専攻から	10
卒業生の声	12
卒業生の進路	14
「社学生」の生活	16
入学案内	17



About College of Social Sciences

筑波大学・社会学類について

社会学類は、社会科学を総合的に教育することを目的とし、同時に専門の内容を深めるために3～4年次は社会学・法学・政治学・経済学の4主専攻に分かれます。他の大学に当てはめて言えば、法学部（法律学科・政治学科）、経済学部、社会学部（ないし文学部社会学科）にそれぞれ所属しながら、他学部（他主専攻）の勉強をすることも可能であり、かつ必要というわけです。

人間はとすると、「深ければ、狭く」「広ければ、浅く」なりがちですから、ひとつの主専攻を深く、かつ他の主専攻を広く勉強することは、決して容易なことではありません。しかし、現代の複雑な社会問題はそのような勉強を要求していますし、またそれに応える勉強は楽しいものです。

たとえば、主専攻分野の勉強を深めるために、2～4年次においては、少人数形式の入門演習や演習（ゼミナール）が設けられ、活発な討論と深い研究の「場」となっています。また、指定の「教職科目」を修得することにより、教員の資格が得られます。社会学類で取得できる主な免許状（科目）は高等学校一種（公民）です。

このほか、学生が生きた学問を体感できるように工場見学や施設見学を行ったり、全国的にも珍しい裁判員制度に対応した模擬法廷教室で裁判実務の講義を行ったりしています。

社会学類と関係する大学院

社会科学と関係する大学院が筑波大学には多数設けられており、大学院に進学する学生も増えています。社会学類と最も密接な関わりを持つものとして人文社会科学研究群（国際公共政策学位プログラム、国際日本研究学位プログラムなど）があり、その他に生命地球科学研究群、人間総合科学研究群、システム情報工学研究群、ビジネス科学研究群などがあります。

法学分野では、東京大塚に、社会人を対象とした法科大学院（ロースクール）が設置されています。

社会学類を卒業後、上記の大学院を経て、あるいは他大学の大学院（ロースクールを含む）を経て、大学やその他の研究機関、行政機関、法曹界、シンクタンク、マスメディアなどで専門知識を生かし研究を続けることが可能です。そうした多くの先輩が活躍しています。

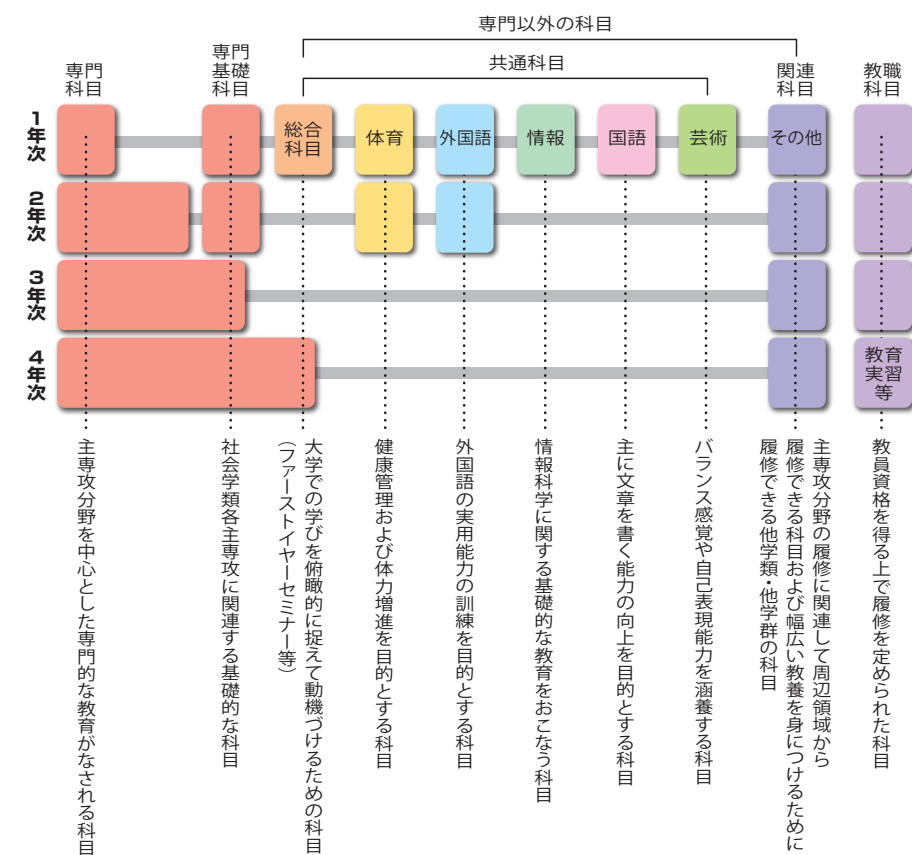
Curriculum

カリキュラム

筑波大学の授業は、従来の大学に多く見られるような教養課程と専門課程という段階的な区分を設けず、一般教育的な科目と専門教育的な科目を有機的に総合的に提供しています。

したがって、学生は、1年次から専門分野の学問に触れることができ、また必要と興味とに応じて他の幅広い学問分野からも知識を吸収することができます。4年間という期間を計画的に、また自らの関心にしたがって組み立てていくことによって、高校時代には味わうことのできなかった学問の奥深さと面白さを、きっと知ることができるでしょう。

授業は、「専門科目」、「専門基礎科目」、「共通科目」、「関連科目」に大きく分けられます。このうち、「専門科目」では各主専攻の専門分野に関わる知識を、「専門基礎科目」では専門分野に関連する社会科学の基礎的な知識を、「共通科目」では体育、外国語、情報、国語、芸術などを、「関連科目」では専門以外の幅広い教養を学びます。



社会学主専攻

社会学への招待

現代社会の様々な出来事は、思いがけないところで私たちの社会生活に変化をもたらしています。変わりゆく企業組織と家族関係の揺らぎ、新しい宗教現象と若者文化、外国人労働者の増加と地域社会、多様化するライフスタイルとメディア、例を挙げればきりがありません。経済、政治、文化、技術など一見ばらばらに見える社会の各領域も、実は相互に深く関係し合っており、そうした複雑な仕組みに眼を向けることなしには、現代社会を理解することはできません。

社会学は、こうした社会の各領域の成り立ちやそこに発生する問題を、特に私たちの日常生活のレベルから解明すると共に、さらに異なる領域の間に広がる見えない関係の連鎖を、人間や組織・集団の観点から自由に明らかにすることを、課題としています。本学の社会学主専攻では、主として社会問題論（国際移動・犯罪・労働・ジェンダー・社会階層）、文化社会論（若者・スポーツ・メディア・知識・歴史）、公共政策論（医療・福祉・教育・科学・都市・家族）を専門とするスタッフが、様々な学生の関心に対応した社会学の「フィールド」を整備しています。（下記の「卒論タイトル抜粋」を見てみてください）皆さんも、私たちが用意したこのフィールドで自由に駆けまわってみませんか？

教育方針と特色

社会学主専攻の科目は、社会学の基礎的な概念や理論を学ぶ社会理論、データを収集し分析するための方法を学ぶ社会調査・社会データ分析、そして家族や地域、産業、福祉、メディアなど個別分野についての社会学に大きく分けることができます。本主専攻では、単に社会理論を教育するだけでなく、現代社会のさまざまな問題に対して自ら頭と足で取り組む能力を養成するため、社会学研究法および社会学演習（ゼミナール）と社会調査実習を開設しています。また国際的な視野から日本社会を学ぶことも重視しています。学生は、こうした学習の成果をまとめる機会として、卒業論文に取り組むことになっています。

将来の方向と進路

マスコミ・製造業・金融業・調査研究機関・サービス業などの民間企業や公務員など、きわめて多様な分野へと卒業生は就職しています。また、希望を生かして教員になるケースもあります。さらに、人文社会科学研究群（国際公共政策学位プログラム社会学分野）をはじめとする大学院に進学することにより、より専門的な研究を続ける道も開かれています。

※ 2024年度以前に撮影された写真を含んでいます。



専門科目の授業風景



つくば市子育て支援総合センター



いわき市の海と水産業（社会調査実習）

卒業論文タイトル抜粋（令和6年度）

- 高校全員入学運動における「職業教育／普通教育」概念の展開過程
- 核セキュリティ不適切事案における問題解決過程
- ミュージアムショップの歴史社会学的研究
- ベトナム人技能実習生の悩みと監理団体の関係性
- 地域のつながりを目的とした子ども食堂の実践と課題
- 消費社会における健康食品の社会学的考察
- 「社会不適合者」アイデンティティの後期近代的分析

法学主専攻

法学への招待

現代社会の複雑多岐な社会生活は、様々な法律や制度によって運営されており、人としてそこに生きる以上、好むと好まざるを問わず法にかかわらざるを得ません。新聞を開いてみれば、個人のプライバシーとマスコミの取材の自由の問題、少年犯罪、児童虐待の増加等、「法的」な問題を毎日のように目にします。また、グローバル化の進展にともなって、外国企業の合併や吸収、国際貢献など、外国とのあいだで法的な解決を迫られる場面も増えています。法というと、一見、日進月歩の科学技術とは異なり、固い、旧態依然というイメージがあるかも知れませんが、決してそのようなことはありません。証券取引の規制、ソフトウェアやバイオテクノロジーの保護や規制、ネット社会特有の諸問題への対応等、新たな法現象が生じてきたこともあって、情報化・グローバル化の今日、法学には、時代の変化に柔軟に対応することが求められているのです。

教育方針と特色

法学主専攻では、ひろく法にかかわる基礎的な理論・システムの把握を教育の中心においており、そうした教育を通じて、幅広い法的なものの見方、考え方を養うことを主眼としています。基本的な実定法を通じて、現実の法体系を学ぶことで、長い歴史のなかで培われた人間の叡知の豊かさを理解し、その社会的役割を適正に評価することができるようになります。

法学主専攻のカリキュラムは、様々な実定法から、政治学・経済学・社会学・人文関係系統にいたるまで、幅広いものを含んでいますが、そうした科目の学習を通じて得られる、社会生活全体を広い視野で考察する適切妥当な観点と判断力が、まさに法的なものの見方、考え方の現れなのです。様々な法分野の講義から、少人数形式のゼミナールや、卒業論文執筆（任意）にいたるまで、法的議論の「場」は多々用意されています。

将来の方向と進路

卒業生の就職先は企業・団体など多岐にわたり、国内外で広く活躍しています。また、法科大学院や政策大学院に進学した後、弁護士や国家公務員として活躍している卒業生や、研究大学院に進学し、研究者として活躍している卒業生もいます。本学大学院では、人文社会科学研究群の国際公共政策学位プログラム、国際日本研究学位プログラムで法に関する学びを深めることができます。

※ 2024年度以前に撮影された写真を含んでいます。



演習の風景



授業風景



模擬法廷を使った授業風景

演習テーマ・卒業論文タイトル抜粋（令和6年度）

- 大学対抗交渉コンペティション（INC）の問題研究
- 憲法論文作成講座
- 入会権と地域社会の研究
- 性犯罪に関する立法論・解釈論上の問題
- 現代人権論やリベラリズム思想史の法哲学的研究
- 民法の問題点の検討

政治学主専攻

政治学への招待

今日、私たちは政治の圧倒的な影響のもとに生活しています。実際、国際間でおこった一つの地域的なテロが全世界の市民をその渦中に巻き込み、政府が決定した一つの経済政策の失敗が、国民一人ひとりの生活のすみずみにまで浸透してきています。私たちが政治に関心をもたなくとも、政治が私たちをとらえてはなさないのです。

政治学はこのような政治の世界を理論的、科学的、歴史的に分析し、理解し、同時に政治のあるべき姿を科学的、思想的に考察しようとする学問です。人間・集団・社会・国家に発生するさまざまな利害の対立と解決の様相を研究するこの学問にとって、「人間」に関する多様な認識と深い洞察力は不可欠であり、そのためには、幅広い教養と専門的な知識を吸収しようとする旺盛な知的好奇心が求められます。

教育方針と特色

政治学主専攻では、政治に関する基本的な概念、理論、歴史などを学ぶ基礎的な講義、入門演習を通して、政治学的なものの見方を身につけます。そして、専門科目、専門演習に入って政治理論、政治思想、政治外交史、国際政治等、それぞれ自分の関心領域を決め、研究を深めます。

とくに演習は、少人数、自主的運営を原則とし、テキストの輪読や興味ある研究テーマについての報告、討議を行い、その成果をゼミ論文としてまとめることになっています。

演習はまた、学生の企画、討論への参加を通して自立心を育てる場であるとともに、ゼミ活動を通じて、学生同士はもとより、教員との相互親睦を深め、社会人としてのあり方を具体的に実践する機会を提供してくれるでしょう。

将来の方向と進路

就職先は、マスコミ、金融、製造、不動産、サービス業、さらに国家、地方の公務員等、多岐にわたっています。最近では、企業の総合研究所や情報関連企業に就職する卒業生も出てきています。また、大学での研究を深めるために大学院に進学する者もいます。



演習の風景



専門科目の授業風景



演習の風景

※ 2023 年度以前に撮影された写真を含んでいます。

卒業論文タイトル抜粋 (令和6年度)

- 天皇制の統合機能の変遷と意義の考察
- 自由主義と民主主義の計量分析
- アメリカの宇宙開発政策——ブッシュ政権とオバマ政権の比較から見る宇宙産業の転換点
- 民主主義における正統性の変容——フランスにおけるポピュリズムを事例として
- 有権者から信頼を受ける政治家の特性
- 民主主義と正統性——ステークホルダー・デモクラシーとエピストクラシーを中心に

経済学主専攻

経済学への招待

経済学は、社会科学で唯一ノーベル賞の対象となっている学問分野です。経済学の方法は、狭い意味の経済現象の分析用具として大きな成果をあげてきただけでなく、政治、法律、労使関係、家族、環境問題、都市、教育、国際関係といった他の分野にも幅広く適応されてきました。その結果、今日では、それらの分野も経済学の重要な領域となっています。

経済学は他の人文社会科学と同様に歴史や思想を重視します。また自然科学と同様に、明確な仮定を設定し、それを客観的データを用いるなどして論理的に明らかにしていきます。

経済学は、しばしば誤解されるような、金儲けや社会の効率化の手段ではありません。それは、現代の社会問題を客観的に、そして検証可能な形で思考するために必要不可欠な手段です。

教育方針と特色

経済学主専攻では、経済学の基礎的な分析手法を段階的に学ぶことができるカリキュラムを設定しています。これに加え、理論や政策から歴史および現状分析に至る教育内容を設定することで、広い社会的関心をもちながら、現代の問題を体系的にとらえる能力の養成を目的としています。

また、他大学の経済学部と比べて教員一人当たりの学生数が少ないという特色を生かして演習（ゼミ活動）を重視しています。

そこでは、活発な議論を通じて経済学をより深く学べるよう留意するとともに、キャンパスを飛び出して工場見学を実施したり、日本銀行や証券取引所見学を実施するなど生きた経済を学ぶための実習的な取り組みも積極的に行っています。

さらに必修ではありませんが、学生生活の総決算として卒業論文をまとめることを推奨しています。

将来の方向と進路

就職先は、銀行など金融業から、製造業、マスコミ（新聞記者など）、公務員などさまざまな分野に及んでいます。また、研究者をめざして大学院に進学する人もいます。



工場見学（クリーンルームにて）



講義風景



横浜国立大学と合同演習後の集合写真

※ 2023 年度以前に撮影された写真を含んでいます。

卒業論文タイトル抜粋 (令和5～6年度)

- 銀行の取り付け騒ぎのゲーム理論分析
- デイサービス施設と利用希望者のマッチング分析
- アルゴリズムの就活市場への応用
- 研究・開発（R&D）に関するゲーム理論的考察
- ネットワーク構造上の公共財供給モデルの研究
- 寄付におけるリーダーの決定とその効果
- ブロックチェーンで分岐が発生する仕組みと均衡
- オークション理論の考察
- ゲーム理論によるスポーツの分析
- 日本の音楽市場に関する分析

教員紹介

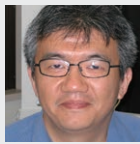
*上から氏名▶「担当授業」▶【研究分野】

社会学主専攻



五十嵐 泰正

「都市社会学」「地域社会学」「社会学演習」「社会学調査実習」▶【都市社会学／コミュニティ形成論】▶「大学の中に引きこもっている社会学者に、社会の何がわかるんだ」でもっとも。否定はしません。「社会は社会なんてから肌で覚えるから、社会学なんて知らないよ!」それはどうかな?「社会」には、たくさんの<社会>があります。油の匂いの漂う工場にも、深夜のファミレスにも。図書館でちょっと時代を遊べば想像もつかない<社会>があるし、海を渡ればちっぽけな予測を軽く裏切る<社会>が待っています。そうそう、大学もひとつの<社会>です。「社会人」になってから、安易に「社会」がわかった気になって失敗しないために、さまざまなく社会>にまみれながら、いくつもの<社会>の成り立ちを自分の頭で考えておく。それが社会学主専攻で過ごす大学生活です。



うらノ・エジソン

TISS Program: Social Issues in Contemporary Japan, Comparative Society, Public Policy, Transnational Social Policy など▶【国際社会学／国際社会政策】▶移住労働者の増加や企業の国際展開などにより、国家を単位とした公共政策が社会保障、雇用、所得再分配などのニーズに応えられなくなっています。こうした「矛盾」を念頭におきながら、社会政策のグローバルな枠組みについて一緒に考えましょう。



加島 卓

「社会学基礎論」「メディアと情報化の社会学」「歴史社会学」「社会学演習」▶【メディアの社会学／デザインの社会学／質的調査】▶社会学を学ぶ面白さは、偶然性を考える点にあります。たとえば、入念に準備をしても上手くいかない場合や、逆に準備をあまりしていないのに上手くいく場合があります。またみんなで一生懸命に取り組んでも、誰もが望まない方向へ事態が展開することもあります。社会はこうした偶然性にあふれており、こうした偶然性がいかにして可能になっているのかを考察するのが社会学です。メディアやコミュニケーションをめぐる「なんでこうなっちゃうの?」を丁寧に考える。そんな社会学をみなさんと目指します。



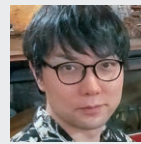
葛山 泰央

「知識社会学」「現代社会学の系譜」「社会学演習」▶【言説分析／知識社会学／フランス政治哲学】▶社会学という学問的な営みを特徴付けているのは、さまざまな社会(的事象)をその内部から観察することの二重性、つまりは「社会への視線」と「社会からの視線」とが互いに織り成す、ある種の往復運動にほかなりません。その意味で、社会学とは、近代社会の自己観察の営みであるともいえます。私たちの生きる社会への、私たちの生きる社会から向けられる、こうした視線のダイナミズムを、あなたもぜひ一度体験してみませんか。



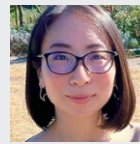
鈴木 彩加

「現代社会論」「ジェンダー社会論」「社会学演習」▶【ジェンダー論／社会運動論／家族社会学】▶女をばなぞ軽しむる女より生れぬ人のあらじと思ふに—この歌は今から100年以上も前、女性に参政権がなく、教育を受ける機会も限られていた時代に、茅野雅子という歌人が詠んだものです。ここで鋭く提起されている問いに、みなさんらどのように答えるでしょうか。現代においてもなお、社会には性別を理由とした様々な格差や不平等が存在し続けています。それらを研究するのが、ジェンダー論という学問です。授業ではジェンダーというレンズをとおして社会をみつめ、考える力・表現する力を身につけていきます。



三品 拓人

「福祉社会学」「社会学演習」▶【家族社会学／子ども社会学／社会的養護】▶「祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響きあり。」有名な冒頭からはじまるこの物語は、社会学という学問に通じているように感じます。時間は常に進み、社会にも私たち個人にも変化が生じます。人生、必ずしも良いことばかりとは限りません。子どもの頃、大人になってから、あるいはもっと年を重ねていく過程で、様々な「困りごと」に直面することがあります。生きていく中で生じる個人的な悩みは、実は社会的な問題とつながっているかもしれません。そのような時こそ、社会学という学問を通して身に着ける力が役に立つと思います。「社会とは何か」という終わりなき問いに向かって、一緒に歩きましょう。



自黒 茜

「科学社会学」「社会学基礎論」「社会学演習」▶【科学社会学／歴史社会学／専門職論】▶社会学を学ぶ醍醐味は、当たり前を疑ってみることや社会問題への関心を深めることなどもあります。何よりも他者への想像力を高めていくことにあります。現代社会に生きる私たちは、社会の変容のなかで個人化というものを経験しているといわれていますが、いくら個人化が進んだとしても、人はひとりでは生きていけないわけではありません。人間と人間の関係性があるからこそ社会があり、自由や平等、連帯を目指してきた近現代社会の歴史は、今を生きる私たちにもさまざまなことを教えてくれます。他者への想像力を高めていった先にみえるものを、みなさんと一緒に考えていきたいと思います。



森 直人

「教育社会学」「労働社会学」「社会学階層論」「社会学演習」▶【社会階層論／教育社会学】▶「学生時代の私は、教育と格差・不平等の世代間連鎖の問題を考えるとところから社会学の世界に入りました。講義のなかで示される「通説」に納得できない違和感を何とか言葉にして、授業が終わったあとの教壇にいた教師に話した覚えがあります。教師の答えは、「その問題はじつはまだ十分よくわかっていないのですよ、ぜひあなた自身で明らかにしてください」というものでした。不思議な解放感とともに、「これが大学か」という思いを抱いた最初の記憶です。すでに明らかにされていることを鵜呑みにするのではなく、新しい疑問を見出し、答えを模索する。その自由を、学生のみなさんとともに体感していきたいと思います。

法学主専攻



秋山 肇

「憲法I」「憲法II」「比較憲法」「憲法演習I-IV」「平和と法」「国籍・無国籍」と法▶【International Human Rights Law】▶【憲法／国際法／国際機構論／平和研究】▶グローバル化が進む今日において、私たちが抱える問題は、より一層複雑化し、多様な視点から理解・分析・解決策の模索を行う必要があります。社会学類は、問題を多面的に捉え、その解決策を考えたい方にぴったりの学びの場です。例えば、法や憲法が解決できる問題がある一方で、社会学、政治学、経済学など様々な学問領域を駆使することで、法の限界を克服し、より良い解決策を導くことが可能になることもあります。素晴らしい仲間(=学生、教職員)とともに、国内外の幅広い問題について多角的かつ批判的に議論し、日本の、そして世界の未来を創っていきませんか? IMAGINE THE FUTURE together!



オルトラーニ アンドレア

「Japanese Law I, II」「Comparative Law I, II」「International Corporate Law」「Seminar (contract law)」(社会国際学教育プログラムTISS)▶【比較法、日本法】▶法律以外の「法」とは何か。比較法、社会的規範に焦点を。全ての社会には、法律、習慣、社会的規範、その他多くのルールの複雑な体系があります。伝統的に、法学は実定法の分析に焦点を当てていますが、私は、法を単なる成文法の集合体ではなく、複雑な社会現象として捉え、法律と社会や、公式と非公式なルールの間の相互作用にも焦点を当てます。さらに、私のアプローチは比較的ですが、文化が法律や社会的規範などに与える影響を理解するために、いくつかの法体系を考慮に入れています。



楠 茂樹

「経済法」「商法I」「経済法演習I-II」▶【経済法／政府契約法／法と経営・経済】▶経済社会はこれまで以上に速いスピードで変化し続けています。通信技術やコンピューター技術の飛躍的な発展は企業の経済活動を活発化し、人々の生活を豊かにしつつも、その結果、産業構造は複雑化し、現代的な市場環境における競争を脅かす新たな独占や支配の構造が作られつつあります。ここで重要になってくるのは法的環境の整備ですが、既存の法的枠組みでは対処できない問題が多くなり、法学の世界は今、隣接諸科学と連携し、新たな時代の新たな知見を探究する必要性に迫られています。そういう「未踏の世界」を皆さんと一緒に考えていきましょう。



蔡 芸琦

「刑法総論」「刑法各論」「刑法演習I～IV」▶【刑事実体法】▶刑法199条によれば、「人を殺した」者は、殺人罪に問われます。たとえば、ナイフで人の心臓を刺す行為は、「人を殺す」行為にあたると考えられます。では、ある飛行機には時限爆弾が仕込まれていることを知りつつ、その飛行機の搭乗を勧める行為は、「人を殺す」行為にあたるとのでしょうか。不注意で車を他人に衝突させ、人に重傷を負わせたにもかかわらず現場から逃走する行為は、「人を殺す」行為にあたるとのでしょうか。言葉には、たくさんの解釈の可能性がありますが、法の解釈の楽しさを実感できる分野の1つが、刑法学です。



篠原 翼

「契約」「国際法演習I・II」「スイス法」「デジタル社会と法」▶【スポーツ法／国際関係法／国際人権法／スイス法／テクノロジーと法】▶法学を学ぶことは、社会における様々な現象を理解することの意味しています。社会は法によって秩序を保っており、法学を学ぶことは、皆さんがこれから社会で生きていく上で非常に役立つものになるはずです。皆さんが家で水や電気を使うことができるのも、インターネットを使用できるのも、すべて「契約」を結ぶことでそのサービスを受けることができます。皆さんが自由に発言することができるのも、憲法や国際条約によって「表現の自由」という人権が保障されているからです。私たちの社会は、「法」とは切り離せないものになっており、「法」を常に自分と密接に関わっているものだと考えて、法学の学習に興味を持っていただければと思います。



木山 幸輔

「法学概論」「法哲学」「法哲学演習I-VI」「法哲学特論」「法哲学小論文演習」▶【道徳・政治・法哲学】▶「法学」って、とっても「堅そう」ですね。噛むと歯が折れちゃいそう。だから、柔らかくアプローチしてみるのが良さそうです。本学にはそのきっかけや場所が多くあるはずです。大事な柔らかさは、他者とのあいだで、他者の視点も大事に自分の考えを生成・変化させていく、そういう態度です。哲学的に考えてみたり、本や友達、教員と関わったり、サークル、バイト、生活の中で考えていく。そうした中で、「私が考えられるかな(ただし暫定的)」という答えを見つけられるかもしれません。美味しく咀嚼できたときの喜びは保証します(こんなの食べなくてもいいのかな、と思うかもしれませんが)。皆さんと充実した時間を過ごせますように。



周 筱

「刑事訴訟法」「刑事政策」「刑事政策と法演習」▶【法学社会学／刑事政策】▶「法とは何か」と問われたとき、まず思い浮かべるのは法令や裁判でしょうか。「法は加害者を守る」と聞いて驚きますか?——実は、刑事訴訟法はまさにそのための法です。国家が圧倒的な力を行使する刑事手続において、被疑者や被告人の人権を守ることが不可欠です。これは、「正しさ」や「公正」をめぐる社会の感覚=作法に基づいた制度でもあります。私は法社会学を専門とし、法を単なる統制装置ではなく、人間と社会の「作法」と交差する場としてとらえています。法学の面白さは、そこにあると信じています。



中空 萌

「法人学」「開発法学」「法人学演習I-II」▶【文化人類学、法人学、科学技術社会学】▶学生時代、28カ国を貧乏旅行しました。自分の常識が通じない世界があると身をもって知った経験は、自分が揺らぐ怖さとともに、大きな解放感をもたらしてくれました。そんなふうに遠くに行かなくても、大学生活は他者との出会いに溢れています。サークルの友人や教員、ときに動植物やロボットまで。すぐにはわかり合えない存在と出会ったときに、相手と自分を冷静に見つめ、試行錯誤を繰り返しながら関係を築いていくことで、新しい生き方がきっと見えてきます。文化人類学は、他者とともに生きる醍醐味と難しさ、人間の多様性と普遍性を学ぶ学問です。文化人類学の視点から、「バラバラなまま一緒に生きる」ための「法」について考えてみませんか。

教員紹介

＊上から氏名▶「担当授業」▶【研究分野】

法学主専攻

星野 豊

「契約」「債権総論」「信託法」▶【民法／信託法／金融法】▶少なくとも学群生である間は、主専攻とする分野や将来の希望職種にとらわれることなく、幅広く学び、自由に考えることを心がけてください。興味を持つ対象が社会科学の範囲を超えて、他の領域に及んでいくことも、全く差し支えないと思います。逆に言えば、「自分はこの分野を専門としている」ということが、「他の分野のことは分からないし関心もない」ということにならないように、十分注意してください。



宮坂 渉

「民法総則」「西洋法制史」▶【民法／ローマ法／西洋法制史】▶古代ローマ時代の法と社会を研究しています。古代ローマの学問は中世から近世にかけてのあらゆる学問に（もちろんそれを通じて近現代の学問にも）影響を与えたので、古代ローマの言語であるラテン語は、近世まで学問の世界の公用語でした。中央図書館4階の「法制史」のセクションには、（宮坂が研究上必要と考えて揃えた）ラテン語（一部ギリシャ語）で書かれた法学関係の書物が置かれています。人類が脈々と伝えてきた「知」を受け継ぐ仕事に挑戦する人が現れることを秘かに願っています。

政治学主専攻



南山 淳

「国際政治学」「国際安全保障論」▶【国際政治理論／国際安全保障／グローバル化と国際紛争】▶「人を殺せば犯罪者となり、数百万人を殺せば英雄となる、数が殺人を神聖なものにするのです…」映画『殺人狂時代』（1947）の中でチャップリン演じる連続殺人犯が発したセリフです。倫理的判断はどうあれ、他者の生命を理不尽に奪うという意味で、殺人と戦争の分岐を犠牲者の数に求めることは一面の真理かもしれません。ただ誤解してはならないのは、大量殺戮の結果、殺人が正当化されるわけではなく、「正当」とされる目的が戦闘行為における殺害を正当化するという点です。戦争の目的が正しいか否かの判断は、人によって、国によって、時代によって変わってきます。「正しい戦争」は本当にあるのか、皆さんと一緒に考えていきたいと思います。



山本 英弘

「政治と社会」▶【政治社会学／市民社会論／社会運動論／政治過程論】▶人々はそれぞれに自分の価値や利益をもっています。このような人々が社会において円滑に共同生活を営むためにはルールが必要です。また、道路や学校などの公共施設をつくったり、感染症を予防したり、1人ではできないことを協力して成し遂げる必要があります。政治とは、このような集団で生活するための決定を行う仕組みだといえます。こうしてみると、政治は遠くの政治家がやっていることばかりではなく、我々の暮らしに身近なことがらとも関わるのがわかります。それでは、社会についての決定は誰がどのように行っているのでしょうか？決まった事柄によって、人々はどうような影響を受けるのでしょうか？政治学を学びながら、遠そうで近い政治の世界について一緒に考えてみませんか。

政治学主専攻



明石 純一

「国境を越える政治」「国際政治経済学」▶【移民・難民研究／アジア地域の国際人口移動に関する政策分析／グローバルガバナンス】▶人（あるいは労働力）・物（商品）・金（資本）、そして情報があたかも自由に国の境界線を越えているかにみえる現代社会を、「ボーダーレス」と形容することが増えました。グローバル化により世界は「ひとつ」になる、ということも頻繁に語られます。しかしそれはどこまでが本当のことなのでしょう。そもそも「国家」「国境」「国籍」「国民」とは、いかなる実体を表す概念なのでしょう。世界各国を放浪していた大学時代にふと頭に浮かんだこの疑問に取りつかれ、今もまだ回答を探している最中です。政治学を含む社会諸科学の習得と行動による実体験を通じて現代社会の変化と普遍性を理解すること、そのような学びの場をみなさんと共有したいと考えています。



河合 晃一

「行政学」「地方自治論」▶【行政学／地方自治論／公共政策学／政策過程論】▶私たちは行政を、自分たちとは縁遠い存在として、しばしば捉えています。しかし実際のところ行政は、私たちにとって、とても身近な存在です。ごみの収集といった日常的なサービスを私たちに提供しているのは行政ですし、警察や消防、公立の学校も行政です。行政について学び、その実態を把握することは、社会全体を理解する上で重要な意味を持つと言ってよいでしょう。行政学では、行政の仕組みや実態を政治学的視点で考察します。またときには、心理学や経営学の視点も組み合わせて、行政活動を担っている公務員のモチベーションやパフォーマンスを左右する要因についても分析します。常識や固定観念にとらわれず、しなやかな思考とともに学びましょう。



鈴木 創

「比較政治学」「アメリカの政治」▶【選挙研究／議会研究】▶新聞やテレビで政治が語られない日はありません。政治についての知識やイメージを得ることはそう難しいことではないでしょう。でも、常識とされていることが本当に正しいのか、常識とされる現象がなぜ起きているのか、ちょっと立ち止まって自分の頭で考えてみてください。有名な評論家がテレビで話していることも、大学の先生が本で書いていることも、批判的に考える姿勢を身につけましょう。



竹中 佳彦

「日本政治論」「日本政治思想」「現代政治外交」▶【政治学・日本政治論（イデオロギーと政治意識、投票行動などの計量分析／戦後の政治外交史・思想史）】▶政治とは、あらゆる人間諸集団に見られる、人間の相互作用によって生じる現象です。それを対象とする政治学は、古代ギリシャにまでさかのぼれる学問で、経済学や心理学、社会学、歴史学などの隣接諸科学の影響を受けながら発展し、時代に応じた役割を果たしてきました。複雑な現代の諸問題を解決するために、学問はますます学際化し、総合的な視点で物事を捉えて政策的に思考する人材が求められています。社会科学を広く学びながら政治学を学べる社会学類のメリットを生かし、そのような能力を培ってください。



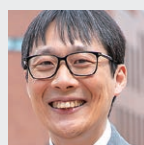
崔 宰栄

「計量分析入門」▶【計量政治学】▶社会をとりまく色々な問題に対し、自分なりの意見を持って積極的に取り組みながら、自分の価値や潜在的能力を導き出し、社会の一員として何ができるのか、何をすべきなのか、という問いに答えを見つけてみませんか。

チャイ イーダー

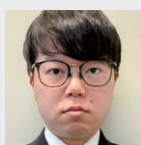
【政治意識論／アジア比較政治学】▶アリストテレスは、善が政治の目的であり、最高善が人々の幸福を実現すると述べました。しかし、歴史を振り返ると、権力者たちは「善」や「人々の幸福」を成し遂げるという名目で、多くの人類の悲劇を引き起こしてきました。政治はわれわれと無関係ではありません。むしろ、誰も政治の影響から逃れることはできないのです。政治学を学ぶことで、良い政治体制に必要な基本要素、政治と一般の人々との関係、国家権力と人権、普遍的な価値観と世界各国の多様性を理解し、最終的に自分自身や身近な政治社会問題、国境を越えた問題への理解を深め、当事者として政治に向き合いましょう。

経済学主専攻



高橋 秀直

「現代経済史」「経済学演習II」▶【経済史／金融史】▶知識は断片的な情報を相互に関連付けて整理したものです。高校までの勉強は、他の誰かが整理した教科書や受験参考書を利用するだけでした。でも、私は、他人の視点を身につけることから一歩踏み出して、自分なりのものの見方を手にしたいと思っています。新しいことを学ぶ度に、自分がすでに知っている知識と関連付ける練習を続けています。授業を通じてその一端を伝えられれば幸いです。



田中 醇

「現代経営史」▶【日本経営史／日本経済史】▶旅行や出張の際に、なるべく寄りにしている場所があります。それは、各地域のスーパーの醤油コーナーです。全国には、同じ「醤油」という名前なのに多様な味の醤油が存在します。その味は、ある人にとっては「懐かしく」「おいしい」もので、他のある人にとっては「いつもと違う…」「甘すぎる!」ものになります。地域という軸だけでなく、時間という軸を動かしていくと、僕らが「当たり前」と思っているものは、実はそんなに「当たり前」ではないということが多々あります。一般的に人間は自らの過去に引きずられると言われます。だからこそ、歴史を学び、時代や地域にいろんな「当たり前」があることを知ることが大事なのではないかと思います。



福住 多一

「経済数学」「基礎経済数学」▶【ゲーム理論／進化ゲーム理論】▶経済学は科学です。その体系の理論的本質の多くは、数学で記述します。これを理解するには、冷徹な論理的思考力が必要です。ただし科学的に解明する対象は、社会現象とそれを構成するヒトです。これを理解するには、社会やヒトに向けた温かい眼差しと豊かな心が必要です。このように、経済学は理系・文系の境界が無い新しい総合科学です。この若い科学を意欲的な皆さんと成長させたいと思っています。



4主専攻から

社会学主専攻 × 松岡晴二郎

「社会」とは一体何でしょうか。普段意識することはありませんが、私たちは確実に社会の中に生きています。日々変化する社会の中では、行為に対して私たちが意図していなかった結果が返ってくることもしばしばです。社会学では、そんな可変性と予測不可能性に満ちた「社会」に対して、問いを立て、考察し、向き合い続けていくことが求められます。少し難しく聞こえるかもしれませんが、社会学の最も面白い部分でもあります。

社会学は扱える分野が広いというのも特徴の一つです。皆さんの暮らす地域も、街で輝くネオンサインも、あなたの好きなスポーツも、身近にある様々なものが社会学の対象となる可能性を秘めています。今ははっきりとやりたいことが見えていなくても、社会学類で過ごす時間の中で、自分が「これだ!」と思うものに

出会えると思います。かく言う私も、大学入学後に他学類のものも含めて様々な講義を受けていく中で視野を広げ、興味関心のある分野を見つけていきました。

また、社会学類には、傾聴力のある人が多く集まっているように感じます。相手の意見をしっかり聞いた

うえで、議論し、一緒に深めていくことができます。先生方もとても積極的で、かつ一人ひとりの学生に対して丁寧に接してくれます。

こうした姿勢は社会学がとても「懐の深い」学問であることと関係があると思っています。立場の弱い人やマイノリ

ティにも寄り添おうとすること、背景をきちんと押さえ、原因を個人だけに帰そうとはしないことなどがその理由です。

社会は今後さらにめまぐるしく変化していくことが予測されますが、社会学を通して社会を少し寛容に見つめていくことができるのではないかと思います。魅力的な仲間と環境の下で、ぜひ社会学という学問に挑戦してください!

法学主専攻 × 政安陽向

「法学」と聞いて皆さんは何を思い浮かべますか?裁判や司法試験など、難しい、堅いといったイメージを持つ方もいると思います。また「守るべきもの」といったイメージも強いのではないのでしょうか。私も以前はそう思っていました。

しかし、法学はとても身近で生活に不可欠なものです。例えば、道路交通法があることで私たちは安全に生活できています。また、国家が国民の行動を制限することを禁止する憲法も、私たちの自由を保障しています。このように、私たちの安全や権利、自由は法律に守られています。

筑波大学での法の学びを通し、私は法の多面性を強く実感しています。筑波大学では学類の垣根を越え、様々な学問を専攻している学生が同じ授業を受けることが多々あります。法学の授業でも多様な視点を持つ学生が集まるため、意見交換の場面で法の多面性に気づかれます。同じ法律でも複数の捉え方や課題があり、たった数行の条文でも様々な角度から考え、議論することができるのも法学の大きな魅力だと思っています。

さらに法学の魅力として挙げられるのが、社会の変化と関連付けて法律を学ぶことができることです。

近年では、インターネットの普及など時代の流れに伴い新たな法律が設定されるなど変化も生じています。一方で、改正に関する議論が長年さ

れているにもかかわらず、変わらない法律もあります。なぜその法律が時代に合

わせて変化しているのか、維持されているのかを議論することで私たちが暮ら

している社会についてより深く知ることができると思います。

筑波大学法学主専攻では、多様な学びを通して自分の視野を広げることができ

ます。皆さんも社会学類で法学の魅力に触れてみませんか?

政治学主専攻 × 今井陽南太

「地球は青かった」——この言葉を、一度は耳にしたことがあるのではないのでしょうか。これは、1961年に人類初の宇宙飛行士であるユーリイ・ガガーリンが宇宙から地球を見た際に発した名言です。ソ連の宇宙船ボストーク1号から見た地球の姿は、彼の、ひいては人類の常識に大きな変革をもたらしました。

さて、社会学は「内部観察の学問」と呼ばれることがあります。我々は社会の外に出てそれを観察することはできません。そのため、社会学では社会の内部から特定の事象にスポットライトを当てて観察する手法が用いられます。この考え方は法学、政治学、経済学とも深く関わっています。

この視点を冒頭の話に重ねてみましょう。ガガーリンから今日の宇宙飛行士まで、誰も宇宙の外に出て宇宙を観察することはできません。しかし、広大な宇宙の内部に存在する地球の様子は「内部観察」することが可能でした。社会学類で学ぶ四つの学問も、これと同じように社会の内部を観察し、驚きと知的探求心をもたらしてくれます。それぞれを体系的に学ぶことで知識が深まり、新たな疑問や発見につながるのです。

実は私自身、「政治」という言葉に苦手意識を持っていました。その定義が難しく、実感も湧かなかったからです。しかし、ある授業でロバート・A・ダー

ルの定義を知り、「政治」が議会や政府だけでなく、サークルや学校、さらには家族にも適用できることを学びました。一見遠い存在に思えた政治が、実は日常に根付いていることに気づき、

「政治」をもっと多角的に学びたいと思うようになりました。そしてこの考え方も、「内部観察」の視点から得られる学びなのです。

皆さんも社会学類での学びを通じて、私たちの住む「社会」を内部観察してみてください。そして、政治学主専攻であらゆる形の「政治」に触れることを楽しんで

ください。

経済学主専攻 × 木下溪花

高校生の頃、社会問題に関心があったこと、その解決のためには社会のなかでお金の流れをより良くする必要があると思ったことから、経済学部を進学先として考えていました。しかし自分の進路は本当に経済学部でよいのだろうかという迷いもあり、社・法・政・経の基礎を幅広く学んだ後、3年次に主専攻を決めることができる社会学類に進学しました。

1年次には4主専攻の基礎科目を履修し、「社会」を多角的に捉えることの重要性を実感しました。さらに2年次には、社会学のゼミや法学の模擬仲裁・法交渉の大会に出場するなど、専攻の垣根を超えた学びを経験することができました。

そのうえで経済学主専攻を選択しましたが、初めから経済学部に入っていた場合とは違う幅広い学びができて

いると確信しています。主専攻を決めた理由は、世界経済の歴史をテーマにした授業と、グローバル競争下にある日本経済をテーマにした授業を受講し、改めて現代社会の基盤である経済の動きを深く学びたいと

思ったからです。経済学主専攻では、そうしたことを学べる理論、歴史、現状分析に関する授業が開設

されています。

さらにゼミ(経済学演習)は、私学のような大人数ではなく少人数を特徴としており、先生や学生と近い距離で活発な議論ができる点

も魅力の1つです。また経済学主専攻では、複数のゼミを履修することが可能です。私は現在、企業経営・地域経済と経営史・経済史のゼミに所属しています。この2つのゼミでの議論を通じて、企業経営と地域経済を歴史と現状の両面から深く学んでいるところ

です。

みなさんも、是非、現代社会に対する視野を広げ、考えるのに最適な社会学類で充実した時間を過ごすことをお勧めします。



活躍する学生 × 北村美月

私は社会学を専攻し、日々の講義や演習を通して学びを深めていると同時に、その中で身につけた「知」を、社会に生きる一人の人間として「用いる」ことも心がけながら学生生活を送っています。

昨年は大学からの支援体制も活用し、社会学類の先輩をはじめとした有志で、つくば駅のちかん対策ポスターの改善点を話し合い作り替える活動を行いました。

私は大きくジェンダーの観点から見る社会に関心があるのですが、なぜ性被害は被害者の自衛によって防ごうとされるのか?ポスターという公共的なメディアが人々の価値観にどれほどの影響を与えるのか?といったことに問題意識を持ちながら活動に励みました。

このような活動ができるのは、自分の違和感を共有できる友人や先輩、先生方の存在に加え、今ある社会を「一旦疑ってみる」センサーの感度のようなものが、日々の授業を通して高められているおかげでもあります。

私たちは大学でたくさんのことを学びますが、私たちは教室の机の前だけで生きているわけではありません。私たちは「生活」をする中で様々な感情や違和感を抱いているはずです。生活、大学、孤独、感情、社会、...これらは全て繋がっており、巡り巡っている、そのことを大いに感じながら学ぶ楽しさは社会学類ならではの楽しみです。



海外留学の勧め × 高沢ひかり

私は二年次の春休みに約一か月間、台湾に短期留学をしていました。第二外国語で学んでいた中国語をさらに学ぶと同時に、アジア圏の国に足を運んでみたいという理由で台湾を選びました。中国語の授業と現地学生との交流は英語で行い、日常生活では中国語を使う、という英語と中国語のハイブリットで一か月間生活しました。その結果、拙い語学力でも物怖じせず現地学生や同じ留学プログラムのネイティブとも会話することができるようになりました。

また、かつて日本に植民地化されていた台湾で歴史や文化の授業を受け、実際に生活したこと、あらゆる分野で日本が与えた影響の大きさを実感しました。「台湾は親日だ」そんな言葉を何度か耳にしたことがありましたが、そんな一言で国家間関係を語ることはできない、そしてそれはかつて支配者となった日本人の傲慢さが表れている言葉なのではないか、と思ったこともありました。

私は留学の中で、今まで見えていなかった日本の良さも悪さもたくさん見るようになりました。留学の価値は語学力向上以外にも多々あります。自分の殻を破り、凝り固まった価値観を壊すという意味でも、留学を考えてみてはいいかでしょうか。



編入学の勧め × 陳蘇婷

私は私大の経済学部から社会学類経済学主専攻に編入しました。編入学は、他大学で取得した単位を活かし、3年次から入学できる制度です。前の大学では今日の世界経済を多角的な視点から学ぶ機会が少なく、もっと幅広く学びたいと思い、編入学を決意しました。

社会学類の魅力は、経済学主専攻に所属しながら、経済学だけでなく社会学・法学・政治学分野や、他学類の授業も積極的に履修できるところです。私は特にグローバル企業が世界経済や社会にどのような影響を与えているかに関心があり、企業経営とともにグローバル化の進展について幅広く学びたいと考えています。

編入した当初は新しい環境に少し不安もありましたが、社会学類の特徴である複数の少人数ゼミに参加でき、皆と色々議論するなかで、自分にはなかった視点や新たな気づきを得ています。さらに、サークル活動を通じて学類を超えたつながりもでき、今では毎日楽しく、充実したキャンパスライフを送っています。

みなさんもぜひ、社会学類で社会科学に関する専門知識と柔軟な思考力を身につけながら、留学生を含め色々な地域から来ている学生と交流し、有意義なキャンパスライフを送ることをお勧めします。



総合学域群からの学び × 小林俊介

私は総合学域群第一類に入学し、二年次で社会学類を選択しました。現在、法学主専攻三年次に所属し、研究室での研究活動に励んでいます。

一年次の間は、総合学域の特徴を活かして国際学、憲法、人間学、言語学、経済学など文系科目から理系科目まで幅広く学びました。また、社会学類でも社会学、政治学、法学、経済学四つの専攻を幅広く学べるカリキュラムが設

計されており、二年で様々な観点から物事を見る力や幅広い知見を身につけることができました。実際私がゼミに参加し現在研究しているのはAIと法をからめた問題です。他学類の講義を受けて疑問に持ったAI分野を自分の専攻である法律をもとに考える。他学類の講義を受けて得た刺激がなければもっと法律に特化し、一つの物事に絞った研究をしていたと思います。このような研究の柔軟性も備えているのが社会学類の良さだと考えます。

また、個人的に社会学類の最も好きである特徴は意見交流やディスカッションが多く取り入れられているところです。自分が今まで培ってきた知識や物事の考え方には偏りや先入観があり育ってきた環境が大きく関わると思います。それらを意見交流することによって自分の視野の狭さを自覚し他の人の目線からの意見が聞けて世界が広がる感じがすごく好きです。(まあ一番はやはり仲良い人が増えて学生生活が豊かになることが理由なのだと思います)

社会学主専攻卒



**株式会社 毎日新聞社
社会部北海道グループ
記者**

後藤佳怜

愛媛県の公立高校出身です。記者になった今、地元を飛び出す「切符」を手にしたのがいかに幸運だったかを実感します。つくばで学び、人生の選択肢も視野も大きく広がったからです。

地元には、「女の子だから」と県内進学しか許されない子がいました。家に学習机が無く弟妹の世話で忙しい子、父親に殴られて育ち、教師を殴って停学になる子もいました。そんな地元で、閉塞感を覚えていました。

社会学の講義を受け、この窮屈さには名前があると知りました。学ぶ機会の不平等、家父長制、虐待や貧困の連鎖……。論を理解するに

は、地元での経験が助けになりました。国内外から集まった同級生との議論で、置かれた環境で世界の見え方が違うことにも気づきました。

多分野に触れられるカリキュラムも、視野を広げてくれました。2年時のゼミでは若者の政治無関心をテーマに、社会運動論の本を読んで論文を書きました。地域社会学の課題では、愛媛県の技能実習生の失踪を調べ、地元図書館で郷土資料に当たりました。

裾野を広げる中で、人生の命題ともいえるテーマに出会いました。卒業論文の「痴漢に対する意識とジェンダー」の調査を通じ、性犯罪軽視や被害者への偏見など、理不尽な現実と直面しました。「性差別をなくすため報道に携る」との思いが強まりました。

現在は、記者としてニュースの現場で奔走しています。事件や事故には、構造的な社会問題が凝縮されていると感じます。問題を自己責任論に矮小化しない報道をしなければ、といつも自戒します。つくばでの学びが思考の軸になっています。

卒業生の1人として、社会学主専攻、ひいては社会学類、筑波大学が、地方出身者や貧しい家庭の人、あらゆるマイノリティーにひらかれ、「切符」を授ける場であってほしいと願います。

法学主専攻卒



**AREホールディングス
株式会社
能地康太**

私は幼少期から、法曹関係の職に就きたいと考えていました。筑波大学の社会学類は、3年次で主専攻を選択するため、それまでに様々なことを学べると知り、法曹三者として、真に困っている人を救えるようになるには、社会、政治、経済等の幅広い教養が必要ではないかと感じ、筑波大学の社会学類に足を踏み入れました。入学後は、所属学類問わず他学類の講義を受講することも奨励されており、歴史学や国際関係の講義など幅広い講義を受講しました。また、社会学類の学生はそれぞれ個性あふれ、バリエーションに富んでいましたが、学問への意欲が高く、探求心があるという点は多くの学生に一致している点で

した。彼らの学んでいること、関心、考え等を共有し、活発に議論を交わしたことは鮮明に覚えています。特に、3年次からはゼミにも所属し、先生や学生と議論を交わし、多様な価値観に触れることができました。そのような学生生活を送る中で、私が関知していなかったところで困っている人々はグローバルに存在し、また、その人々を救う方法も多種多様であるということを知りました。現在私はAREホールディングスという会社で働いています。自動車触媒や、歯科の廃材、廃電子基板等から貴金属を分離し、精製し、市場に戻すという貴金属リサイクルの会社です。大学の講義で、貴金属採掘に係る少年労働や違法労働についての事実を知り、彼らが置かれた状況を変えるトリガーとなる、リサイクル由来の貴金属の重要性を知ったことが大きな志望理由です。大学での学び、学生間、先生との対話や議論を通じて得た知識によりキャリアを選択することができました。筑波大学社会学類は学際的な学びを受けられる場があり、先生や学生との距離が近いと、自分の視野を広げると同時に、幅広い知識を得ることができます。ぜひ素晴らしい社学ライフを送ってください。

社会学類の先輩達は当時どんなことを考え、
どんな学生生活を送っていたのか？
今は卒業し就職した先輩達に聞いてみました。

政治学主専攻卒



**外務省
堀江健吾**

私にとって筑波大学の社会学類は、やりたいと思ったことを後押ししてくれる環境でした。私は高校時代の台湾留学の経験から、日台関係に高い関心を抱いていました。そのため在学中の将来の進路は、どの業界であれ日台関係に携わりたくて漠然と考えていました。

社会学類では政治学主専攻と決めていましたが、一・二年次は、社会学・経済学・法学の授業も履修要件としてあり包括的に社会科学を学ぶ機会があります。政治学では、政治思想や国際政治学等の哲学や概念、理論を中心に学びましたが、いずれも三・四年次に自身の関心分野についての研究を進めるにあたり、大切な土台を作ってくれ

ていたのだと後に気づきました。

私は社会学類を通じて学び得たことの一つに批判的思考があると思っています。客観的に物事を捉えて理解し、当たり前や常識を本当にそうなのか？と一度立ち止まり、自身の頭で考え分析し自分なりの結論を導き出す視点は、学問を学ぶ上で非常に重要なのだと実感しました。このスキルは、社会に出てからの人生や仕事において、問題を解決する上でも他者とのコミュニケーションを醸成する上でも、必要不可欠な力だと感じています。

卒業後は、外務省に入省し奇しくも中国語ではなく米語採用でしたが、一年間の本省での実務研修を経た後の二年間の在外研修は、米国の公共政策大学院で中国研究をする機会をいただきました。米国視点で中国政治を研究し、また、米国の文化や社会を知る貴重な経験を通じて大局観を養うことができたように感じます。

現時点で、特にやりたいことが無く不安になられている方も居られるかと思いますが、社会学での学びを進める中でご自身にとって情熱を注げるものに出会えることが必ずありますので、気楽に、ときに貪欲に自分のペースで探してみてください。

経済学主専攻卒



**石川県庁
小菊 日怜媛**

私にとって社会学類経済学主専攻の魅力は、なんと言っても少人数制のゼミでした。私は企業経営とゲーム理論を学ぶ2つのゼミに所属していました。そこでは、Amazonやハイアールなどワールドワイドに展開する大企業から、国内の地域に根差した中小企業まで、様々な企業の経営や戦略について、ゼミの仲間と楽しく学ぶことができました。

工場見学に行ったり、成功事例・失敗事例を皆で読み解くなかで、特に印象に残っているのは、ダーウィンの進化論が指摘しているように、目まぐるしく変化する情勢を感知し変容することの重要性です。

この変容の力は社会学類で大いに養うことができると思います。まず四つの分野の社会科学を幅広く学ぶことで、物事を多角的に見ることができるようになります。自然と多方面にアンテナを張る習慣が身につく、社会の変化に敏感になります。また少人数ゼミでは学生・教授とも近い距離で対話ができるため、感じ取った変化や問題意識について、気軽に共有し、新たな知見を得られるということも少なくありません。

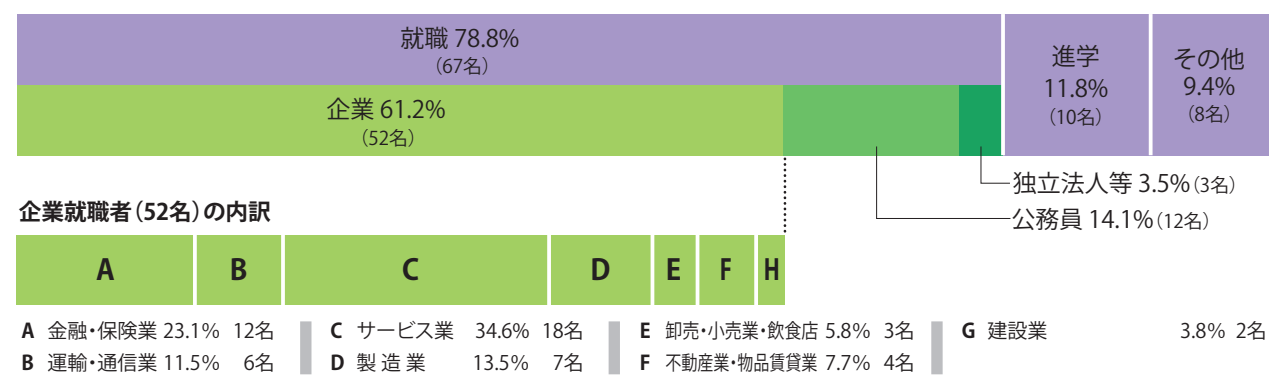
卒業後、私は地元に戻り、県庁で伝統産業の振興に関わる仕事をしています。伝統工芸は石川県が誇る重要な産業の一つですが、その土地に根ざした生産体制と歴史を重視するとともに、時代の変化を感知し変容させていくことも必要です。独自の新商品開発や海外販路開拓などで新たな活路を開き変容していくことは、伝統工芸を守る上で避けられせんし、私も今後そのようなチャレンジを支援する仕事をしたいと思っています。

皆さんもぜひ社会学類で幅広く学び、少人数ゼミで仲間と楽しく議論することで、質の高い学びを味わい、変容する力を身につけてもらえたらと思います。

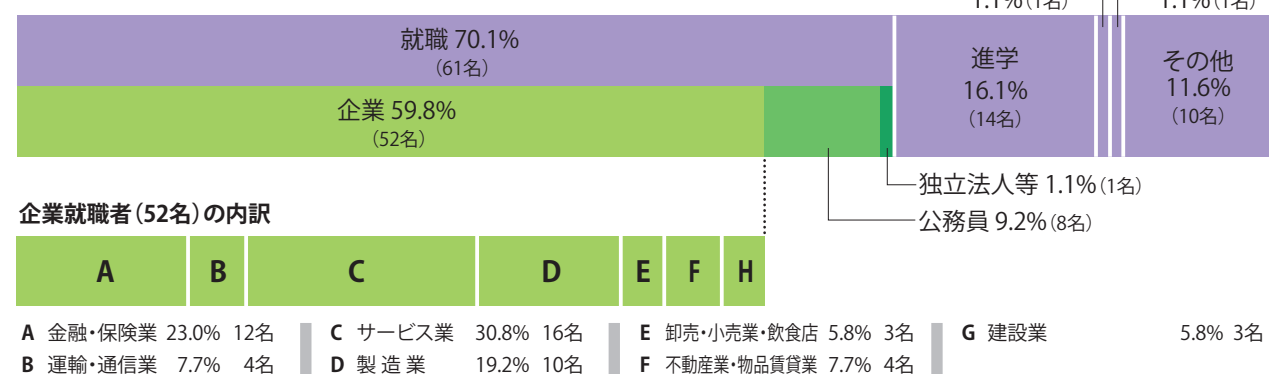
卒業生の進路

最近の傾向でみると、就職する者が約7割に達し、その就職先は多岐にわたります。特に金融、サービスならびに製造業分野に強く、多くの人材を輩出してきました。また公務員の道を選ぶ者も多くいます。一方、大学院進学や司法試験・公認会計士などの資格試験の準備をする者もあり、将来、研究職や高度な専門職につく卒業生も少なくありません。

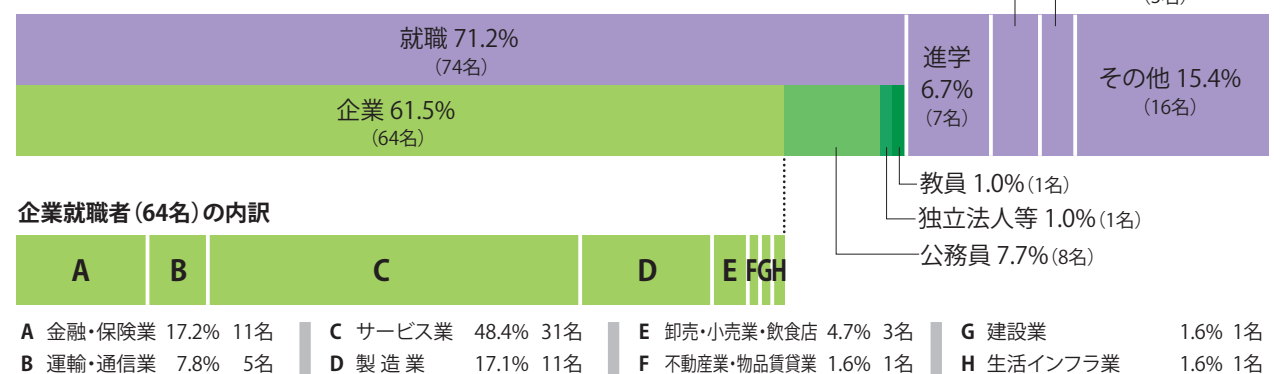
令和6年度 【卒業生85名(英語プログラム5名含む)】



令和5年度 【卒業生 87名(英語プログラム4名含む)】



令和4年度 【卒業生 104名(英語プログラム1名含む)】



最近の主な就職・進学先(令和1~6年度)

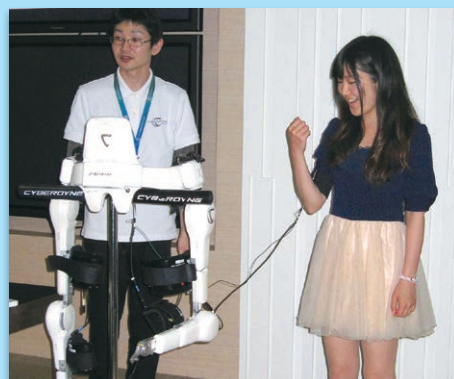
- 銀行・信託業**
三井住友銀行／みずほ銀行／三菱 UFJ 銀行／ゆうちょ銀行／りそな銀行／常陽銀行／静岡銀行／中国銀行／東北銀行／千葉銀行／七十七銀行
八十二銀行／筑波銀行／大東銀行／三菱 UFJ 信託銀行／野村信託銀行／三井住友信託銀行／茨城県信用組合／全国信用金庫協会
三菱 UFJ ニコス／クレディセゾン／三井住友カード／ジェシービー／イオンクレジットサービス など
- 保険・証券業**
第一生命保険／明治安田生命保険／オリックス生命保険／かんぽ生命／大同生命／太陽生命／東京海上日動／損保ジャパン／あいおいニッセイ
アクサ生命／コープ共済／野村證券／大和証券／SMBC 日興証券 など
- 新聞・放送業・出版業**
日本経済新聞／毎日新聞／時事通信／共同通信／中日新聞／日本放送協会(NHK) / TBS テレビ／ニッポン放送／新潮社／白泉社／ぎょうせい
セプテーニ・ホールディングス／イッツ・コミュニケーションズ など
- 生活関連サービス・娯楽業**
星野リゾート／ホテルオークラ東京／サンライズプロモーション東京／アデコ／日本中央競馬会／福岡ソフトバンクホークス など
- 製造業**
本田技研／ENEOS／日立製作所／日産自動車／SUBARU／プリズトン／富士通／キャノン／コニカミノルタ／富士フイルム／凸版印刷
三菱マテリアル／住友化学／明電舎／コカ・コーラ ボトラーズジャパン／味の素冷凍食品／日本製紙木材／日本製鐵 など
- 生活インフラ業**
東京電力／北陸電力 など
- 運輸・物流業**
東日本旅客鉄道(JR 東日本) / 東急／西武ホールディングス／日本郵船／郵船ロジスティクス／中日本高速道路／鴻池運輸／日鐵物流
NTT ロジスコ／上野輸送／全農物流 など
- 住宅・建設業・不動産業**
三菱地所／鹿島建設／清水建設／鴻池組／大和ハウス工業／フージャースコーポレーション／茨城セキスイハイム／野村不動産 など
- 情報・通信業**
ドワンゴ／日本郵便／ソフトバンク／日立システムズ／NTT データ アイ／DNP 情報システム／伊藤忠テクノソリューションズ
ソニーグローバルソリューションズ／楽天グループ／電通デジタル／キーエンス／パソナプロセス & テクノロジー／ジーシーシー／オービック
ヒューマンインタラクティブテクノロジー／都築電気／Fringe81 /インフォテック・サービス／ラキール など
- 調査・コンサルティング・広告代理店**
野村総研／アクセンチュア／大和総研／船井総合研究所／マクロミル／ビジネスコンサルタント／デロイトトーマツコンサルティング
マネジメントソリューションズ／リヴァンプ／一広グループ など
- 卸売業・小売業**
伊藤忠商事／青山商事／三井物産スチール／日本マクドナルド／ルイ・ヴィトン ジャパン／内田洋行／成城石井／ベイシア／フェリシモ
メガネスーパー など
- 教育**
ベネッセコーポレーション／日能研／茨進 など
- その他のサービス**
ピズリーチ／パーソルキャリア／ニチイ学館／図書館流通センター など
- 公務員**
●**中央省庁**：文部科学省／経済産業省／総務省／厚生労働省／農林水産省／外務省／特許庁 など
●**裁判所**：さいたま地裁 など
●**都道府県庁**：東京／茨城／埼玉／神奈川／千葉／石川など
●**市役所**：文京区／野田／古河 など
- 教育研究機関・独立行政法人**
筑波大学／一橋大学／常総学院高等学校／産業技術総合研究所／日本原子力研究開発機構／宇宙航空研究開発機構 など
- 公共団体・組合等**
全国農業協同組合連合会／青年海外協力協会 など
- 進学(大学院)**
筑波大学／東京大学／東北大学／京都大学／千葉大学 など



宿舎に入居している学生を中心として、毎年5月末に開催される宿舎祭。参加の充実感120%。



新入生がキャンパスを飛び出して、アメリカンセンターJapanを訪問した時のものです。



授業の一環でサイバーダイナミクスに出かけ、世界初のサイボーグ型ロボット「ロボットスーツ HAL A.N.」を体験した時のひとコマです。



卒業式の後に、学類主催の祝賀会を開催しました。その一幕です。

「社学生」の生活

Campus Life



社会学卒業生等を招いて毎年実施している就活相談会です。社会で活躍する先輩から貴重な意見を気軽に聴けるイベントで熱気があります。



11月に行われる学園祭「雙峰祭」の様子です。一般のお客さんとサークルや学類の屋台で賑わっています。毎年大変盛り上がる筑波大学最大のイベントです。

新入生が入学後スムーズに社会学類になじめるように、新歓イベントや先生との食事が楽しくにぎやかに開催されます。期待してください！



社会調査実習で福島の水族館へ出かけて放射線測定イベントに参加しました。キャンパスを飛び出して行う学類の実習や工場見学は楽しいですよ！



※2019年度以前に撮影された写真を含んでいます。

入学案内

入学定員 1 学年 80 名／編入 10 名

推薦入試

募集人員 16 名
試験時期 11 月下旬
試験科目 小論文および面接

一般選抜

募集人員 前期 40 名
試験時期 大学入学共通テスト …………… 1 月中旬
個別学力検査 …… **前期** 2 月下旬

▽ 個別学力検査（学類・学群選抜）の試験科目

前期 ●外国語（英）

●数学（数Ⅰ・数Ⅱ・数A・数B）、国語（現代文B・古典B）、
地理歴史（世界史B、日本史B、地理Bから1科目を選択）の中から1教科を事前選択

※総合選抜（募集人員20名）、留学生特別プログラム入試（募集人員4名）については大学アドミッションセンターのHPに記載。

編入学試験

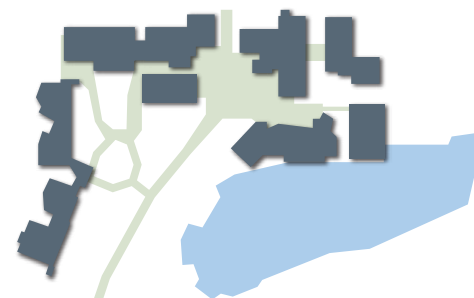
募集人員 10 名
試験時期 11 月下旬
試験科目 各主専攻分野の専門科目、外国語および面接

問い合わせ先

筑波大学 教育推進部 入試課 Tel. 029-853-6007
なお、募集要項の発表は、毎年9月下旬です。

※詳細は以下のURLまで
<https://ac.tsukuba.ac.jp/>
<http://www.tsukuba.ac.jp/admission/index.html>

注意) 以上は、2025年6月現在の情報です。
今後の変更については、筑波大学のHP上などで公表いたしますので、必ずご確認ください。



筑波大学社会学類案内誌

社会学類への招待

2025年7月1日 初版一刷発行 禁無断転載

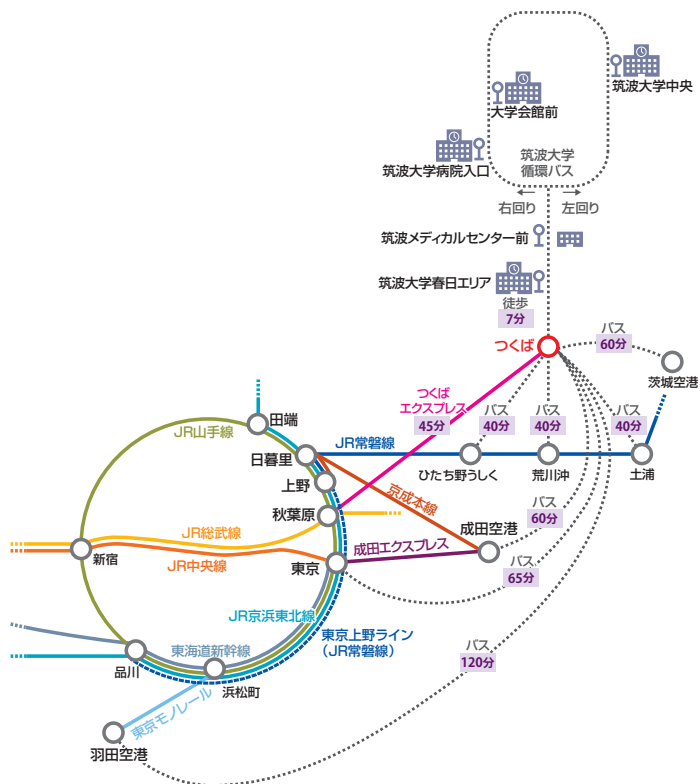
編集委員 学類長：明石 純一
社会学類広報委員：森 直人（委員長）、河合 晃一、秋山 肇、平沢 照雄

企画・編集 社会学類広報委員会

デザイン 松澤 康行
写真 小沼 渉

発行 筑波大学社会・国際学群社会学類
〒305-8571 茨城県つくば市天王台1-1-1
<http://shakai.tsukuba.ac.jp/>

印刷・製本 株式会社いなも印刷



筑波大学へのアクセス | Access

●つくばエクスプレス

- 「秋葉原駅」から「つくば駅」まで最速45分
「つくばセンター」から
「筑波大学循環(右回り/左回り)」バス(10-15分)「第一エリア前」下車

●高速バス

- 「東京駅八重洲南口」から「筑波大学」行きバス(約75分)
- 「東京駅八重洲南口」から「つくばセンター」行きバス(約65分)
「つくばセンター」から
「筑波大学循環(右回り/左回り)」バス(10-15分)「第一エリア前」下車

●JR常磐線

- 土浦駅
西口バスターミナルから「つくばセンター」行バスで30分
- 荒川沖駅
西口バスターミナルから「つくばセンター」行バスで30分
- ひたち野うしく駅
東口バスターミナルから「つくばセンター」行バスで35分

「つくばセンター」から「筑波大学循環(右回り/左回り)」バス(10-15分)「第1エリア前」下車